

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

平成15年12月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

電池月間メインイベント開催

11月11日から12月12日は「電池月間」。本年も恒例行事として広報委員会が中心になって「でんちフェスタ」と「プロ野球最優秀バッテリー賞」を実施した。

1. 「2003でんちフェスタ」

電池の正しい使い方と環境問題への意識啓発をしていただくための、記念イベント「2003でんちフェスタ」を11月8日に、例年どおり池袋サンシャインシティで開催した。

今年度、16回目を迎えた恒例の社会福祉法人中央共同募金会・本田章博常務理事へ電池工業会木村侃丘専務理事から単3形アルカリ乾電池3万本の寄贈、および「みらいのでんち」アイデアコンテスト表彰式を行った。なお、表彰作品は当日パネル展示した。

メインステージでは、来場者参加の電池〇×クイズと、2本のロープを使う縄跳びパフォーマンス「RUN-D-CREW」ショーを行い、来場者にも参加してもらった。初めての2本の縄跳びにもかかわらず、上手に飛び続ける人もあり会場はおおいに盛り上がった。



アイデアコンテスト表彰式



RUN-D-CREWショー



オリジナル手作り乾電池教室

また、体験ゾーンでは、「オリジナル手作り乾電池教室」、「電池輪投げゲーム」、「バッテリーパワーに挑戦、電池対人間の綱引き」「スタンプラリー」の催しを行った。今年お目見えた「乾電池くん」の着ぐるみも大人気で、家族連れを中心に4,600名超の参加者に終日フェスタを楽しんでいただいた。

2. 「プロ野球最優秀バッテリー賞」

今年で13回目を迎えた電池工業会とスポーツニッポン新聞社が制定する「2003年プロ野球最優秀バッテリー賞」の表彰式を12月3日、東京・港区の東京プリンスホテルで行った。

パ・リーグからは日本一に輝いた福岡ダイエーホークスの斉藤和巳投手と城島健司捕手、セ・リーグからは阪神タイガースの井川慶投手と矢野輝弘捕手の両バッテリーが受賞。名実ともに球界No.1捕手に成長した城島捕手は最近5年間で4回目の受賞、他の3選手は初受賞となった。

田中千秋電池工業会会長から賞金100万円、白根邦男スポーツニッポン新聞東京本社社長から表彰額が各選手に贈られた。挨拶を行ったパ・リーグ小池唯夫会長とセ・リーグ豊蔵一会長とは両バッテリーを絶賛、また、「バッテリー賞」というユニークな賞を今後も継続してほしいとの希望があった。

司会にはTBSアナウンサー豊田綾乃、アシスタント役で「ミス日本」「ミス海の日」を迎え会場に華を添えた。また、ステージ横には初お目見えの「乾電池くん」「充電電池くん」「バッテリーくん」のキャラクターが愛嬌をふりまいた。当日の様子は多くの夜のスポーツニュースでも取り上げられ、バッテリー賞の認知度の高さが窺えた。

バッテリー賞の選考は、評論家として豊田氏、張本氏、有藤氏、東尾氏、牛島氏、中畑氏、楨原氏を迎え、スポーツニッ



田中千秋電池工業会会長挨拶

ボン新聞社、電池工業会も加わり、満場一致で決定した。

また、クイズの応募総数は19,630件、正解者数は17,274件で、中野照子様、梅本ひとみ様、熊谷一郎様の3名の方に10万円の旅行券、石田様他99名の方には4選手のオリジナルデザイン1,000円分のクオカードを送らせていただいた。



選考委員会の評論家の方々



表彰された4選手

技術委員会活動

1. 「一次電池関係」

本年度 電池工業会は財団法人日本規格協会からの公募請負事業として、7件のJIS規格原案(改正および制定)を作成する。

その一環として、11月14日に機械振興会館 会議室において、JIS原案(JIS C 8500一次電池通則)作成本委員会を開催した。

神奈川大学 工学部の佐藤教授を委員長として、外部から有識者、関係省庁などの「中立者」委員の方と、機器メーカー団体、消費者団体などの「使用者」委員の方にも出席いた

だき、電池工業会委員会で作成したJIS原案の審議が行われた。活発な議論が交わされ、当日の討議事項は分科会で再検討のうえ、次回の書面審議で承認されることとなった。

また同日、電池工業会が国内審議団体となっている、IEC国際規格の日本回答原案についての外部委員の方から幅広い意見あるいは審議をいただくため、国際規格回答原案調査作成委員会(IEC/TC35)を合わせて開催した。

* IEC/TC35は、IEC規格のうち一次電池に関する規格を作成している専門委員会である。



2. 「二次電池関係」

最新版JIS発行のお知らせ

平成13年度に電池工業会 二次電池技術委員会(分科会)及び標準化委員会で作成した5種類の改正JIS案が日本工業標準調査会の審議を経て、最新版のJISとして平成15年10月20日付で発行された。

JISは法律で5年後ごとの見直しが決められており、今回の改正は前回の改正から5年が経過したためである。最新版JISの発行により平成15年10月20日以降は従来のJISが無効になり、この最新版のJISで運用することになる。主な改正点は、JISの様式が平成12年に改正されたのでそれに合わせたほか、以下の通りである。

No	名 称	主な改正点
JIS C 8702-1:03	小形制御弁式鉛蓄電池—第1部：一般要求事項、機能特性、及び試験方法	・名称をIEC規格に合わせて、「小形シール鉛蓄電池」から「小形制御弁式鉛蓄電池」に変更した。 ・適用範囲を実状に合わせてさらに明確化した。 ・高温加速寿命試験方法を新たに附属書(参考)として追加した
JIS C 8702-2:03	小形制御弁式鉛蓄電池—第2部：寸法、端子及び表示	
JIS C 8702-3:03	小形制御弁式鉛蓄電池—第3部：電気機器への使用に際しての安全性	
JIS C 8706:03	据置ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池	IEC規格が改正されたため、改正内容を反映させ、さらにIEC規格との整合化を進展させた。
JIS F 8101:03	船用鉛蓄電池	平成4年以來の改正のため、引用規格の名称等を最新版に合わせて変更した。

蓄電池設備整備資格者

講習修了考査合格者(大阪・愛媛会場分)

電池工業会は、9月24・25日大阪府で、10月28・29日愛媛県で開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査に合格した者の氏名を発表した。

合格者(合格率)は、大阪130名(87.8%)愛媛31名(93.9%)合格通知は直接本人に通知される。

大阪府

田中信介、大河内正美、木下 誠、坂元 智、岡田清則、江部昌志、向井 靖、北池武信、辻 剛兒、南方伸之、竹林治雄、村山美生、近藤雅幸、河井 毅、山本真揮、重住隆夫、黒田政光、平山 茂、古屋武士、山本岳朗、後藤芳男、黒川満喜夫、鈴木拓雄、重本 忍、小林正季、末光照明、屋久順也、久一真吾、酒井 成、谷口博則、遊佐英明、大浦征夫、川合浩一、河合剛志、高山好也、柳田一成、坂口峰幸、持田浩之、上村 崇、日下部裕一、吉川 稔、山下健二、福吉 修、木村恒久、竹内章剛、倉本春樹、竹本 勲、天羽 正、吉田茂昭、横川幸生、足立賢一、霜出孝洋、大藤昭夫、水谷吉克、濱田幸男、河野成次、香川千賀子、龍野美幸、坪倉慎吾、中尾訓明、近藤 康、窪田尚久、水谷吉伸、守時 哉、柄谷真咲、江原勝年、大場 悟、井上貴裕、木村健二、奥田伸也、小寺 豊、深谷 均、竹林邦博、木下正夫、西川 孝、土江啓一、田井祥夫、高山泰典、村田三喜男、橋本昌佳、板橋友人、茅谷 透、蔵本 孝、武智正和、三春陽平、福嶋康夫、栗本 仁、谷山 直、古滝 晃、仲井順治、井上忠久、井上康浩、和田輝彦、伊藤元道、中村喜紀、立脇雅敏、松井俊祐、藤本達也、佐藤忠生、平岡一郎、北尾高志、藤本清信、横山育雄、谷 嘉規、長谷川佳孝、渡部千寿雄、中垣充弘、瀬戸尚之、森貞健二、田中文人、井田和史、信田充博、佐野広和、帯刀淳史、菅谷信彦、早川勇雄、森 浩平、川条健二、田岡晴夫、古谷野哲也、山下博次、林 直義、平山智也、宇治澤文孝、紺家克文、中村浩造、田中耕治、田沢 直、川崎貴史、山地弘展。

愛媛県

小笠原聖雄、伊賀上真介、畑 哲夫、村上琢文、高島伸治、二神嘉彦、藤本慎一、工藤康光、柿原 博、平野太司、木村祐介、内藤将史、武智隆二、鈴木保徳、松本新二、丹 浩美、佐々木栄治、東 昌比呂、村上好尚、吉岡敬三、矢野博之、元木利夫、紘谷晃弘、八木健充、八木俊行、伊藤隆行、中尾 晋、岡崎智雄、宮本弘樹、沼田壮平、末田宗一郎。

経済産業省からのお願い事項

統計調査に御協力ください

製造事業所の皆様へ

経済産業省

経済産業省では、工業統計調査を平成15年12月31日現在で実施します。

この調査は、製造業を営む事業所を対象として、その活動実態を明らかにすることを目的として調査します。

調査結果は、国や地方公共団体の行政施策の重要な基礎資料として利用されるとともに、大学や民間の調査機関等においても広く利用されているところです。

皆様から提出していただく調査票については、統計法に基づき調査内容の秘密は厳守されますので、正確なご記入をお願いいたします。

業界動向

《電池・燃料電池・太陽電池》

***新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)** 携帯用FCの実用化に向け初めての助成プロジェクトで、日立製作所、日立マクセル、日立電線グループとNECを採択した。(10月2日付 日刊工業)

***日本電池** 中国・上海にフォークリフトなど電気車用鉛電池の販売会社を現地法人と合弁で設立、営業を開始した。(10月2日付 日刊工業、電波&日経産業)

***京セラ** 住宅用を中心とした太陽光発電システムの年間生産能力を現行の72メガワットから、2004年6月には約1.7倍の120メガワットに増産する旨を発表。生産能力は世界第2位に浮上する。(10月3日付 日刊工業&科学工業日報)

***東芝** モバイル機器用小型FCの開発に成功した。出力は1ワット、2005年内の商品化を目指す。(10月4日付 電波&日経産業)

***三洋電機** リチウムイオン電池の生産能力を、2004年度に現行の月3,900万個から月5,800万個に増す旨を発表。(10月7日付 日経、電波、日経産業、日刊工業&化学工業日報)

***ソニー** ポリマー型リチウムイオン電池の生産能力を20-30%増の月600万-650万個に引き上げる。(10月7日付 日経)

***鐘淵化学工業** シースルー(採光型)太陽光発電を中心とした太陽電池の生産を、現在の年産約3万平方メートルから2004年3月には3倍の約9万平方メートルまで増産する。(10月10日付 日刊工業)

***松下電工** 施設用照明器具の新製品としてニッケル水素電池を採用した「Hf蛍光灯非常照明器具」二百七十一品番を発売したことを発表。(10月11日付 電波)

***ホンダ** FC車の心臓部となる新型FCスタックを開発した。新型スタックは氷点下でも始動可能で、低温時の走行性能を大幅に改善される。(10月10日付 日経)

***日本電機工業会(JEMA)** 電機各社はノートPC、携帯電話等に使う小型FCの規格統一に乗り出す。月内にもJEMAにFC規格に関する委員会を設置へ。(10月20日付 日経)

***アルカテル[仏]** 電池事業を展開する子会社のSAFT社を欧州最大の投資会社であるダウティ・ハンソン社に売却する事を発表。(10月22日付 電波)

***セイコーインスツルメンツ** 小形電池の開発・製造を手掛ける子会社エスアイアイ・マイクロパーツの株式49%を投資ファンドの日本産業パートナーズに譲渡したことを発表。(10月23日付 日刊工業)

***YUASA** 電動二輪車用FCのセルスタックを、ヤマハ発動機との共同開発で進めている。(10月24日付 電波、日経産業&化学工業日報)

***バラード・パワー・システムズ[加]** FC技術の他企業へのライセンス供与に踏み切る。これにより自動車向けを軸に市場の拡大を急ぐ。(10月24日付 日経)

***日本電池** 中国・無錫市の電気自動車用電池工場の開所式を21日に行った。生産規模は年20万個。(10月24日付 化学工業日報)

***シャープ** 2004年3月から、欧州(英国)で太陽電池の生産を開始する。当初は年間20メガワット。(10月31日付 日経産業)

《商品・技術・材料》

***日本電子** 素材に炭とアルミを用いた高性能の蓄電装置(キャパシター)を開発、太陽光発電の蓄電用やFC車への利用等幅広い用途での実用化を目指す予定。(10月2日付 日経)

***ホンダ** 家庭に設置できるFC車用水素ステーションを開発、米国の研究所で実証実験を開始した。なお、水素は天然ガスから取り出すシステム。(10月3日付 日経&日刊工業)

***関西電力** 据置型鉛電池の寿命を簡単に判断できる測定装置を開発した。電池ごとの使用環境に応じた寿命判定が出来る。(10月3日付 日刊工業)

***アイシン精機** 電動車椅子で従来品より約2倍の走行距離を実現した新製品を開発した。ニッケル水素電池の採用により一回の充電で約20キロメートルの走行が可能。(10月10日付 日経産業)

***日本合成化学** 次世代の電池の電解質材料として注目されているイオン性液体の開発に成功。電池材料分野に本格進出へ。(10月10日付 化学工業日報)

***東芝電池** 空気清浄機等に使用されるにおいセンサーを採用した電動消臭機を11月から発売する。(10月10日付 日経産業)

***セイコーインスツルメンツ(SII)** リチウムイオン電池の2セル直列用保護ICを開発、15日から発売する。販売目標は2004年度以降年1,000万個。(10月15日付 電波&日経産業)

***電子情報技術産業協会(JEITA)** PHS(簡易型携帯電話)の出荷数が前年同月比2倍以上の16万台と6ヶ月連続で増加、再び脚光を浴び始めている。(10月15日付 日経産業)

***ジョンソン・アンド・ジョンソン** アシスト機能を付加した電動車椅子を発売。今後、国内の福祉市場に本格参入する。(10月16日付 日刊工業)

***NECTーキン** 電気2重層キャパシタに、小型・薄型タイプのラインアップを強化、携帯電話向けに展開へ。(10月21日付 化学工業日報)

***BMW[独]&デルファイ[米]** FCを用いた自動車用の補助電源システムを共同開発する。これによりバッテリーは不要へ。(10月21日付 日経産業)

***松下電器産業** 世界最小サイズのポータブルMDプレーヤーを11月20日に発売する。電源は新開発の取り外し可能なリチウムイオン電池。(10月24日付 電波)

***JFEコンテナ(JFEスチール子会社)** FC車への水素供給技術の確立を目指す国際プロジェクトに日本企業として初参加をする。(10月27日付 日経産業&日刊工業)

***三菱化学** リチウムイオン電池向け材料の総合展開を目指し、セパレーターも事業化へ。(10月29日付 化学工業日報)

***東京理科大学** 紫外線照射で水を分解し水素を発生する光触媒を開発した。これを基に今後は可視光でも機能するものに改良。(10月29日付 日経)

***高圧ガス保安協会(KHK)** FC車に搭載する水素圧力容器や水素ステーションの安全性を検証する為、「燃料電池システム技術調査委員会」を発足、検討を開始。(10月31日付 化学工業日報)

《環境》

***REACHシステム(新化学品規制/EU)** 欧州化学企業の経営首脳から、競争力を阻害すると再考の意見が出された。(10月2日付 科学工業日報)

***環境省** 2004年度の環境保全経費の概算要求額を纏めた。概算要求額は、前年度の当初予算に比べ、8.1%増の2兆9645億円。(10月2日付 科学工業日報)

***8都県市** 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市の8都県市は、電池工業会等と共同で電子機器のリサイクルを推進するキャンペーンを開始、12月末まで実施する。(10月3日付 日刊工業)

***同和鉱業** 子会社の同和クリンテックスが土壤汚染対策法の汚染土壌浄化施設に関する認定を秋田県知事から取得したことを発表。(10月7日付 日刊工業、日経産業&化学工業日報)

***三井金属** 2003年度中に土壌浄化処理事業に参入する方針を固めた。3年後を目途に100億円の売上を目指す。(10月21日付 日刊工業)

《予測・統計》

***カメラ映像機器工業会** DSCの1-8月の出荷実績は国内505万台(前年同期比35%増)、輸出1,865万台(同98%増)、合計2,370万台(同80%増)と伸びている。300-400万画素が主流で高画素化が進行中。(10月6日付 電波)

***富士経済** FC関連の国内市場規模は、2020年3,660億円に達するとの予測を纏めた。FC車に加え住宅向けの定置型も普及すると予測。(10月10日付 日経産業)

***電子情報産業技術協会(JEITA)** 2003年7-9月期のパソコンの国内出荷実績が、前年同期比24%増の262万7千台、金額も17%増になった。金額ベースのプラスは3年ぶり。(10月22日付 日経産業&電波)

***マルチメディア総合研究所** 2003年度上期(4-9月)の国内携帯電話出荷実績は、カメラ付携帯電話が市場を牽引したことで、総出荷台数が前年同期比27.5%増の2,569万台になった。なおカメラ付携帯は全体の88.2%。(10月23日付 日経産業)

《その他》

***工業標準化法(JIS法)** 改正案の概要が明らかになった。ポイントは、JISで制定されている全ての鉱工業製品について表示法を原則自由化する。民間認証機関による第三者認証機関登録制度「新JISマーク表示制度」を制度化するの2点。(10月1日付 日刊工業)

***経済産業省** 11月から特定標準化機関(CSB)制度と標準仕様書(TS)制度を新たに導入、運用を開始する。規格原案を迅速にJIS化するの狙い。(10月7日付 日刊工業)

***BYD[中国]** 10年間に最低20億元(1元=約14円)を投じ、年産能力20万台の乗用車工場を建設すると王董事長が語る。(10月13日付 日経)

***財務省** 日本製品の模倣品貿易を防ぐ為、アジア各国と強調して知的財産権の保護強化に乗り出す。(10月21日付 日経)

***政府** 2005年春に創設する方針の知的財産高等裁判所の素案が明らかになった。技術の専門家[技術判事]として起用、最先端技術がからむ司法判断への信頼性を高める。(10月27日付 日経)

***経済産業省** 2002年度の製品事故情報を纏めた。総計は1,803件で前年度比16.6%増の過去最高、内家電製品が47.1%で第一位、製品別では電動髭剃り用充電器の発火・発煙事故が最多の14.2%。(10月24日付 日経夕刊)

平成15年11月度の電池工業会活動概要

部会	11月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	8日(土)	[でんちフェスタ]開催	池袋サンシャインシティで開催、参加人員は4600名
	14日(金)	JIS原案作成本委員会(標準化委員会)	JIS「一次電池通則」改正審議
	14日(金)	IEC国際規格回答原案作成委員会	TC35(一次電池)の日本回答原案の報告と審議
	14日(金)	広報委員会	プロ野球最終バッテリー賞関連の詰めとでんちフェスタの結果報告
	17日、18日	IEC国際会議(Ad-hoc)	自動車用電池に関するIEC規格改正審議
	19日～21日	2003国際放送機器展	プロビデオ用Li-ionバック電池に関し米国英国メーカ等5社が出展
	20日～23日	2002東京国際消防防災展出展	防災機器用電池の紹介と仕様の啓蒙等
	26日(水)	環境総合委員会	国内、海外の環境関連法令改正動向の報告
二次電池部会	4日(火)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局会議	産業用電池新リサイクルスキーム審議
	5日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	6日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	7日(金)	二次電池部会	蓄電池設備認証センターの件、自動車電池リサイクルの審議
	10日(月)	自動車鉛分科会	JIS(D 5301)始動用鉛蓄電池 改正案。
	11日(火)	資材・(自)リサイクル特別合同委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	12日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	13日(木)	(自)市販小委員会	新リサイクルスキーム広報について
	13日(木)	据置鉛分科会	H16年度改正JIS(C 8704-2制御弁式)の内容構成。
	19日(水)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局会議	産業用電池新リサイクルスキーム審議
	20日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	21日(金)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	21日(金)	産業電池技術サービス分科会	電源装置の寿命更新に関するパンフレット作成、他
	21日(金)	自動車用鉛蓄電池標準化委員会	JIS(D 5301)改正案1件、SBA(安全指針)改正案1件。
	25日(火)	(自)技術サービス小委員会	自動車用電池総合診断パンフレットの内容
	27日(木)	充電器分科会	SW電源装置の規格化検討、蓄電池設備認定に関する見直し、他
28日(金)	産業用電池小委員会	産業用電池新リサイクルスキーム審議	
28日(金)	EV用電池委員会/EV鉛分科会合同委員会	JARI規格(EV用制御弁式鉛電池の試験方法)改正原案	
29日(土)	EV用電池委員会/HEV用電池分科会合同委員会	JARI規格(HEV用ニッケル・水素電池の寿命試験方法)改正原案	
小形二次電池部会	5日(水)	IEEEテクニカルライター-Dr.ラルフ氏との会議	IEEE P1625最終規格案におけるBAJ提案情報の導入まとめ
	7日(金)	ニカド・ニッケル水素分科会	JIS原案(C 8705)改正、小形二次電池の機械的試験制定)作成審議
	7日(金)	リチウム2次分科会	JIS原案(C 8711)改正、小形二次電池の安全性制定)作成審議
	11日(火)	日本・国連代表八十川氏との会議	2004年に向けた日米共同政策案の支援要請(ロビー活動)
	12日(水)	海外環境WG会議	2004年3月発行予定の世界の電池規制冊子に関し、編集構成を確定
	12日(水)	再資源化委員会アルカリ分科会	PRTR資料の活用検討及び廃棄ルートフローの検討
	19日(水)	再資源化委員会	廃掃法改正に伴う課題検討及びマンガン系の再資源化課題検討
	20日(木)	第30回国連対応委員会	2004年対応、国土交通省の航空局と海事局対応の検討
	21日(金)	第127回海外環境委員会	欧州情報の最新確認と電池規制冊子の編集検討等
	25日(火)	航空危険品専門委員会(日化協)	国際輸送機関第19回ICAO会議の報告。航空適格マークの扱い等
25日(火)	業務委員会	10月度販売状況の検討及び統計資料に関する課題の整理等の審議	
28日(金)	小形二次電池技術委員会	分科会、WG審議内容の確認と承認	
一次電池部会	13日(木)	一次電池PL委員会	02年度乾電池重要クレーム調査結果の報告と質疑等
	14日(金)	IEC小委員会	IEC/TC35関連審議(ベルリン国際会議結果)
	14日(金)	JIS小委員会	JIS「一次電池通則」改正審議
	21日(金)	一次電池業務委員会	海外製アルカリ乾電池の表示文言チェックとボタン電池回収方策の確認
	27日(木)	器具委員会	電池工業会規格(SBA S 1601/携帯電灯)改訂版の審議等

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

アイドリングストップ配送車両対応バッテリー 「HDPシリーズ」に1機種を追加発売

日本電池株式会社(社長:村上 農一郎)は、このたび配送車両対応バッテリー「HDPシリーズ」に1形式2タイプを新たに追加発売いたします(11月より全国発売)。

HDPシリーズはアイドリングストップを頻繁に繰り返す配送車両に対応した重負荷対応型高性能バッテリーとして2000年8月の発売以来、ご好評をいただいております。

近年、環境配慮意識が世界的に向上している中、運送業界でも貨物の積み下ろしなどによる停車時のアイドリングストップ運動が高まっております。短い間隔でエンジンのスタートとストップを繰り返すアイドリングストップはバッテリーに対して相当な負荷をかけることになり、重負荷に対応した長寿命バッテリーのニーズが高まりを見せております。また、宅配便などでは温度管理を行うクール便などのサービスメニューも多様化・高度化しており、配送車両では特装車の増加、冷凍車では多室式の冷凍車が増加傾向にあります。そのため、車両に対する電気負荷も増大しており搭載バッテリーも大型化しております。

このような背景のもと、今回は配送車両の中でも特に増加が著しい特装車・冷凍車に対応すべくE41サイズを追加させていただくことになりました。

E41サイズは、従来のHDPシリーズと同様に充電受入性の改善を図るなど配送車両に最適な製品設計を施すことで寿命耐久性を向上させ、当社従来品比で1.6倍の長寿命(40℃重負荷寿命試験)を実現することができました。

— 特長 —

1. 18ヶ月6万kmの製品補償を実現
強化グリッドやハードペースト(鉛粉)、超低抵抗セパレーター、配送車両最適比重値の採用により、18ヶ月6万kmの製品補償を実現した。
2. メンテナンスフリー性能の向上
3. 信頼性の向上
4. 最適比重設計



9月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成15年9月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	557,618	65,158	100%	107%	4,486,347	512,118	98%	101%
全電池合計	556,863	64,312	100%	107%	4,478,543	500,914	98%	102%
一次電池計	407,693	13,559	97%	94%	3,290,648	108,504	98%	91%
マンガン乾電池計	83,175	1,581	82%	81%	683,955	12,655	84%	78%
単一	9,122	437	86%	83%	75,517	3,605	87%	80%
単三	37,425	572	74%	74%	339,214	4,777	80%	75%
その他	36,628	572	90%	88%	269,224	4,273	88%	80%
アルカリ乾電池計	130,788	6,658	106%	104%	990,972	50,167	103%	97%
単三	84,125	3,687	106%	104%	638,124	27,740	105%	99%
単四	28,038	1,264	107%	102%	204,323	9,425	99%	93%
その他	18,625	1,707	104%	107%	148,525	13,002	101%	96%
酸化銀電池	85,685	906	95%	92%	749,002	8,064	102%	99%
リチウム電池	103,963	4,209	106%	89%	817,695	35,486	103%	89%
その他の乾電池	4,082	205	56%	69%	49,024	2,132	84%	81%
二次電池計	149,170	50,753	110%	111%	1,187,895	392,410	99%	105%
鉛電池計	3,687	13,132	93%	94%	28,705	95,660	94%	94%
自動車用	2,421	7,309	97%	91%	17,514	52,723	100%	93%
二輪用	373	749	89%	88%	3,255	6,619	94%	99%
小形シール	645	864	79%	102%	6,067	7,145	81%	91%
その他	248	4,210	100%	97%	1,869	29,173	95%	97%
アルカリ電池計	71,464	8,882	88%	88%	602,618	73,648	77%	79%
完全密閉式	36,464	3,896	93%	88%	306,946	34,286	82%	80%
ニッケル水素	34,983	4,556	83%	90%	295,388	36,958	73%	78%
その他のアルカリ電池	17	430	31%	71%	284	2,404	103%	69%
リチウムイオン電池	74,019	28,739	146%	134%	556,572	223,102	141%	125%
器具計	755	846	108%	71%	7,804	11,204	100%	89%
携帯電灯	457	330	129%	87%	4,404	3,614	105%	84%
電池器具	298	516	86%	64%	3,400	7,590	95%	92%

9月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成15年9月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸出)	301,216	31,977	98%	107%	2,433,227	262,611	97%	104%
一次電池計	173,684	3,092	91%	78%	1,435,025	27,658	99%	90%
マンガン	49,374	386	82%	62%	408,512	3,390	88%	76%
アルカリ	26,125	526	106%	97%	195,170	3,805	135%	126%
酸化銀	35,730	411	83%	80%	292,987	3,516	93%	93%
リチウム	61,297	1,736	103%	78%	519,195	16,434	104%	87%
空気亜鉛	892	16	58%	57%	14,327	256	73%	61%
その他の一次	266	16	21%	77%	4,834	256	147%	119%
二次電池計	127,532	28,885	108%	111%	998,202	234,953	95%	106%
鉛蓄電池	433	559	109%	76%	2,769	5,695	78%	90%
ニカド	32,244	2,688	102%	94%	256,760	22,668	82%	79%
ニッケル鉄	0	0	-	-	16	9	32%	55%
ニッケル水素	24,097	2,430	76%	75%	210,053	21,556	68%	71%
リチウムイオン	56,666	19,623	136%	115%	426,217	157,535	131%	113%
その他の二次	14,092	3,586	113%	168%	102,387	27,490	105%	156%
全電池合計(輸入)	49,764	5,345	135%	148%	484,979	41,559	128%	125%
一次電池計	45,486	1,556	138%	130%	449,209	13,615	129%	118%
マンガン	9,908	127	120%	120%	101,439	1,261	129%	115%
アルカリ	31,723	519	149%	137%	306,332	5,596	127%	113%
酸化銀	179	4	94%	89%	1,063	25	40%	45%
リチウム	1,718	252	148%	154%	12,603	1,645	91%	139%
空気亜鉛	353	10	171%	114%	4,555	132	157%	113%
その他の一次	1,605	645	89%	120%	23,217	4,956	228%	120%
二次電池計	4,278	3,789	108%	158%	35,771	27,944	124%	128%
鉛蓄電池	560	1,558	112%	132%	4,940	12,878	116%	115%
ニカド	1,108	321	69%	107%	12,790	3,026	115%	85%
ニッケル鉄	7	17	>>>	>>>	102	202	3070%	2807%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	2,604	1,893	140%	206%	17,938	12,038	134%	167%